

大和合金

航空機向け部品 増強

大和合金が新設した 三芳工場の敷地面積は 5590平方メートル、本社工場の3倍強。加工設備として、本社工場から移設した8台の数

大和合金が新設した 三芳工場の敷地面積は 5590平方メートル、本社工場の3倍強。加工設備として、本社工場から移設した8台の数



【川越】大和合金（東京都板橋区、萩野源次郎社長、049・273・6006）は、埼玉

埼玉・三芳工場を稼働 三芳合金と連携 需要増に対応



大和合金で出荷を待つ、航空機足回り部品

内製化率を向上させ 検査工程の移管を受け 業で行っていた非破壊 によるタイムロス削減

している。同社は「欧州の大手航空機部品メーカーの品質認証を複数年受ける」（萩野源次郎社長）など、ここ数年で航空機向け部品受注が数倍に伸びた。このほか、自動車向け抵抗溶接電極や、半導体スパッタリングターゲット台座、海底ケーブル向け筐体などの受注が好調だ。今後は原油や天然ガスなどの市況回復を見込み、プラント部品などの受注増も視野に入れる。

大和合金は銅合金の販売を、三芳合金工業は主に製造を担当する。2014年度は大和合金が42億7000万円、三芳合金工業が同38億円と、ともに過去最高の売上高を更新。さらに15年度は「両社とも14年度比1割強の売り上げ増」（同）を見込んでいる。

日刊

THE NIKKAN

工業

KOGYO SHIMBUN

新聞

3月14日 曜日

2016年（平成28年）